

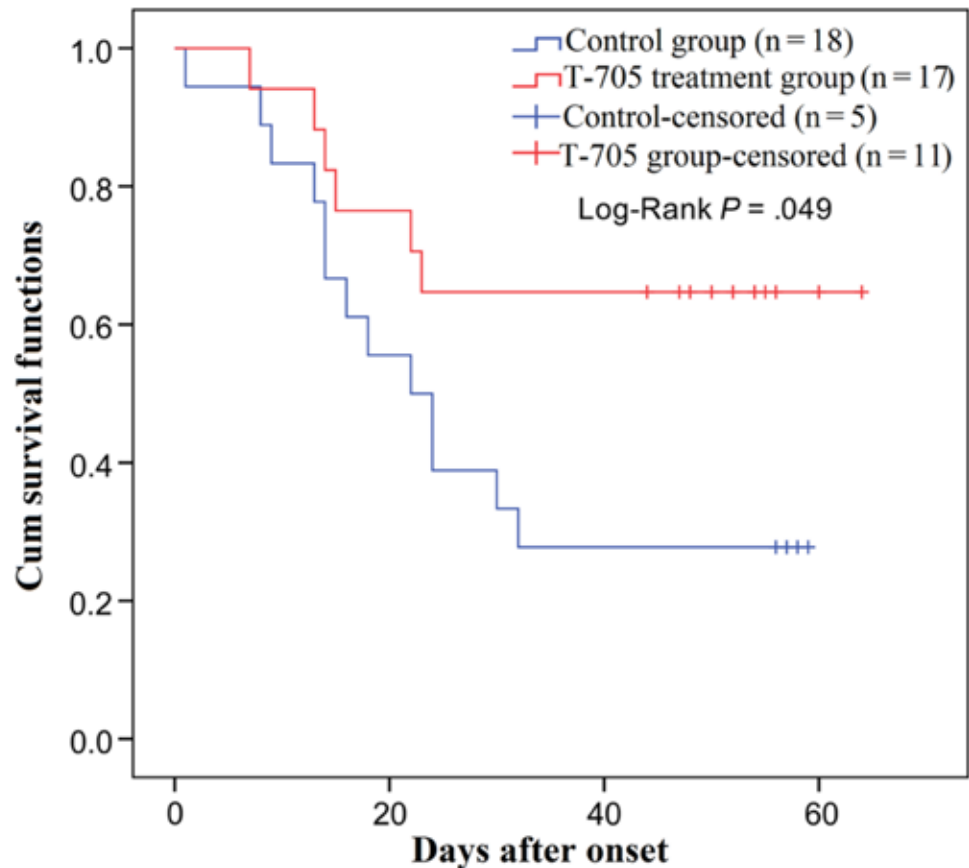
# ウイルス性出血熱等に関する 最近の話題

国立感染症研究所  
高度封じ込め施設長  
西條政幸

# ウイルス性出血熱に対する治療薬に関する研究

( Bai CQ, et al. Clinical and Virological Characteristics of Ebola Virus Disease Patients Treated With Favipiravir (T-705)-Sierra Leone, 2014. Clin Infect Dis 63:1288, 2016 )

- 日本の製薬メーカーである富山化学工業(株)の古田要介博士らにより開発されたfavipiravir
- エボラ出血熱に対する特異的治療効果があることが示唆された。



エボラウイルスは潜伏感染して再活性化することにより、脳関髄炎を引き起こすことがある。

(Jacobs M, et al. Late ebola virus relapse causing meningoencephalitis: a case report. Lancet Infect Dis, 2016)

- シエラレオネにおいて人道的貢献のためにエボラ出血熱患者の治療・介護に携わった32歳のスコットランド出身の女性看護師
- エボラ出血熱を発症し、英国に緊急搬送され治療を受け、幸い回復した。
- その約1年後に脳脊髄膜炎を発症し、脳脊髄液からはエボラウイルスが分離された。

# スペインにおいて感染したと考えられるクリミア・コンゴ出血熱患者が確認され、院内感染事例も発生した。

(Negredo A, et al. Autochthonous Crimean–Congo Hemorrhagic Fever in Spain. N Engl J Med 377:154, 2017)

- 2016年夏に、マドリード市在住の62歳の男性は発熱、腹痛、吐き気、下痢等の症状を呈し、Infanta Leonor University Hospitalを受診した。
- 多臓器不全で死亡した。
- 後にクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)と診断された。
- 治療に携わっていた看護師もCCHFウイルスに感染し、CCHFを発症した。
- 原因のCCHFウイルスはアフリカ型で、東欧で流行しているウイルスとは異なっていた。
- 日本からファビピラビルが緊急提供された。

# 先進国(ドイツ)での初めてのラッサ熱人から人への感染事例の発生

(Ehlikes L, et al. Euro Surveill. Management of a Lassa fever outbreak, Rhineland-Palatinate, Germany, 2016.2017 Sep;22(39))

- アフリカのトーゴから搬送された患者がラッサ熱で死亡した。
- その患者の埋葬・葬式を担当した方がラッサ熱を発症した。接触から12日目に発症した。
- 2次感染者の家族は感染しなかった。
- 計21人の人が経過観察対象となった。

# 2016年のコンゴ民主共和国で流行した 黄熱流行対策への貢献

(Protecting people against yellow fever in Angola and the Democratic Republic of the Congo , WHO: <http://www.who.int/hac/crises/cod/features/20160805/en/>)



国際緊急援助隊として、感染研村山庁舎ウイルス第一部と疫学センターから専門家が派遣された。